

ドイツ演奏旅行記念 浜松バッハ研究会演奏会

J.S.バッハ / J.S. Bach

復活祭オラトリオ BWV 249

Osteroratorium



2001年4月22日(日) アクトシティ浜松中ホール

主催：浜松バッハ研究会、豊橋バッハアンサンブル

後援：浜松市・浜松市教育委員会、豊橋市・豊橋市教育委員会、(財)浜松市文化協会、(財)アクトシティ浜松運営財団

代表挨拶

本日はお忙しい中、浜松バッハ研究会演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

昨年はバッハ没後250年ということで私達にとっても大きな節目の年となりました。まず2月には三澤先生の指揮による10年ぶりの「口短調ミサ曲」の再演が、ここアクトシティ浜松中ホールに沢山のお客様をお迎えしてできたことが挙げられます。「再演するからには10年の歳月に恥じない、前回は凌ぐ演奏を目指す」ことを目標に約2年間の歳月をかけて取り組みました。やればやるほど未熟な点が浮き彫りになっていく中、三澤先生の御指導とバッハの作品そのものもつ偉大な力であつと言う間に過ぎた2年間でした。演奏後は様々な御感想、ご批評をいただきましたが今回の目標はクリアできたのではないかと思います。

7月には一緒に歌っている仲間である豊橋バッハアンサンブルが中心となって、バッハの命日にミニコンサートを行いました。ソプラノ独唱や、チェンバロ、フルートなどバッハ愛好家の方々が豊橋市八町小学校の音楽室に集い、アットホームなコンサートになりました。本年もまたミニコンサートの企画が進んでいる様です。豊橋での演奏会の貴重な礎となることでしょう。

12月末から1月にかけては念願のドイツ公演を行うことができました。浜松バッハ研究会にとって初めての海外公演で何をどう進めて良いのか分らない中、当会の前代表・河野周平氏（パリ在住）の強力な行動力と、たくさんの方々に御助言、御助力をいただき、ついにバッハが多くの作品を作り演奏したライブチヒ聖トマス教会の礼拝で演奏するというこれ以上ない経験をすることができました。また教会を中心とした文化の深さを肌で感じ、私達が演奏活動を続けることで少しでも地元浜松の音楽文化の広がりにも貢献できればという思いを新たにしました。

さて本日の演奏会ではドイツで一番多く演奏したモテット6番に加え、復活祭オラトリオなど全4曲を演奏いたします。礼拝での演奏をイメージしつつ、躍動感に溢れるバッハの音楽を表現したいと思います。

最後になりましたが、本日ご来場くださいました皆様、常日ごろより私たちの活動を支えてくださっている皆様に会員一同心から感謝いたします。

浜松バッハ研究会代表 早川徳次

上演曲目

モテット「恐るるなかれ、われ汝とともにあり」

Motette "Fürchte dich nicht, ich bin bei dir": BWV228

カンタータ第80番「われらが神は堅き砦」

Kantate "Ein feste Burg ist unser Gott": BWV80

----- 休憩 : Intermission -----

モテット「主を頌めまつれ、もろもろの異邦人よ」

Motette "Lobet den Herrn, alle Heiden": BWV230

復活祭オラトリオ「来たれ、急いで走れ」

Oster-oratorium "Kommt, eilet und laufet": BWV249

(^_^)(' _ ') (_) (* _ *) **出演者一覧** (^_^)(' _ ') (_) (* _ *)

合唱団

ソプラノ	アルト	テノール	バス
井浦芙蓉子	安藤美津恵	鴻巣学	青木繁光
井戸恵子	伊藤道子	戸島準一郎	安藤佑治
今村陽子	伊藤(木山)道子	丹羽哲也	生駒修治
大河内美雪	小貫素子	早川徳次	伊藤博
大場美智子	金子恒江	端山好彦	大石泰由
岡田典子	小林益世	森光彦	岡村好偉
金子ますみ	鈴木理恵		小川貴範
小林京子	高木克子 (練習伴奏ピアニスト)		小貫勇作
戸島美湖	武田清美		駒沢真司
丹羽多美子	浪崎加代		鈴木秀明
丹羽衛 (小2)	長谷川明子		高森義之
長谷川悠 (小4)	馬淵京子		萩野潔
早川真央 (小4)	森田悦子		長谷川正仁
早川実花	谷中理畝子		長谷部雅彦
端山恵美	山田セキ子		毛利行弘
疋田恵美子	山田智子		安井研一
三宅ゆりの			山田和典
毛利優子			

管弦楽団

第1バイオリン	北川靖子、生駒尚子、大河内淳子、小沢規子
第2バイオリン	木村英道、田邑利香、山村妙子
ビオラ	秋元紀子、小林勝、福本はる奈
チェロ	神農清志、高林元博
コントラバス	田邑元一
リコーダ	宮岡慎里、村瀬正巳
フルート	木村伊都子
オーボエ	大橋弥生、宮岡慎里、村瀬正巳
ファゴット	曾布川利貞
トランペット	磯部謙作、大橋瑠子、福田員茂
ティンパニ	今泉好雅
オルガン	花井淑

**独唱 - ソプラノ : 藤崎美苗、アルト : 永島陽子
テノール : 西垣俊朗、バス : 初鹿野剛**

指揮 : 三澤洋史

録音 : 福本信夫

主な出演者のご紹介

指揮：三澤洋史

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業。在学中より指揮者を志し、故山田一雄氏に師事。その後ベルリンに渡り、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。帰国後はオペラ指揮者としてデビュー。二期会音楽スタッフの中心的存在として活躍。二期会合唱団や東京オペラシンガーズを中心とした我が国の合唱指揮者としての地位は、今や不動のものとなっている。サバリッシュ、ホルスト・シュタイン、デュトワなど外来指揮者からの信頼も厚い。バッハに深く傾倒し「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などを全て暗譜でレパートリーに持つ。バロックから現代まで声楽を伴うオーケストラ作品の全ての分野に精通する。1999年度バイロイト音楽祭に、名合唱指揮者ノルベルト・バラッチのアシスタントとして参加。その業績が認められ、2000年にも再び招聘され、2001年夏も参加予定。2001年9月より新国立劇場専属合唱団指揮者に就任。それに伴い12年勤めた東京芸術大学を3月で退いた。

ソプラノ独唱：藤崎美苗

岩手大学教育学部中学校教員養成課程音楽科卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。現在同大学院修士課程在学中。声楽を朝倉蒼生、瀬山詠子、佐々木正利、佐々木まり子の各氏に師事する。また芸大バッハカンタータクラブにおいて研鑽を積んでいる。第10回友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて第2位入賞。これまでにJ.S.バッハの教会カンタータ、「口短調ミサ曲」、「クリスマス・オラトリオ」、ヴィヴァルディ「グローリア」、メンデルスゾーン「エリア」、サン・サーンス「ミサ曲ト長調」、C.フランク「ミサ曲イ長調」、フォーレ「レクイエム」などの宗教曲でソリストを務める。京葉混声合唱団、コーロ・ブリランテ各ヴォイストレーナー。浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行にソリストとして同行。各地で講評を博す。

アルト独唱：永島陽子

桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業。1976年春渡欧。1976年～1980年オーストリア、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科に在籍。1980年旧東ドイツ、ライプツィヒにおける国際バッハ・コンクールにて女声5位入選。同年ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科を最優秀にて卒業。1980年～1986年旧西ドイツ、デトモルト国立音楽大学声楽科に在籍。1983年同大学を最優秀にて卒業。1986年演奏家国家試験を最優秀にて修了。萩谷納、ヴォルフガング・シュタインブリュック、ローマン・オルトナー、ヘルムート・ドイチュ、ヘルムート・クレッチマル、ユリア・ハマリ、ディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウの各氏他に師事。1980年以来ドイツを中心にヨーロッパ各地、イスラエル、日本でリートおよびオラトリオの演奏活動を続けている。これまでに、バッハの作品ではクリスマス・オラトリオを61回、口短調ミサ曲を23回、ヨハネ受難曲を22回、マタイ受難曲を10回、マグニフィカートを8回、カンタータは79曲を計150回程度、ヘンデルのメサイアを33回、ヴェルディのレクイエムを4回、ドヴォルザークのレクイエムを2回、マーラーの亡き子をしのぶ歌を4回、等々を演奏している。1997年春帰国。現在、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

テノール独唱：西垣俊朗

大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータ、オラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」等の“エヴァゲリスト歌い”として高く評価されている。1978・79・85年、名テノール E. ヘフリガー氏と「マタイ受難曲」で共演。1984年と85年には日本オラトリオ連盟のソリストとして、ヨ

ヨーロッパ各地で演奏し好評を博す。またアルカディア協会の1989年夏のシンガポール演奏旅行と1990年夏のシンガポール、ヨーロッパ演奏旅行のソリストとして各地で好評を博した。オペラでは1976年、東京オペラ・プロデュース公演のロッシェニ「オリー伯爵」でデビューし、以後「放蕩息子」「スペインの時」「セヴィリアの理髪師」「ピヴァ・ラ・マンマ」などに出演。また関西二期会を代表するリリック・テナーの一人として「魔笛」「ドン・ジョバンニ」「セヴィリアの理髪師」「真夏の夜の夢」「こうもり」「コシ・ファントウツテ」などの主役を務めている。昭和59年度神戸市文化奨励賞受賞。浦山弘三、E.ヘフリガーの両氏に師事。関西二期会会員、神戸音楽家協会会員、日本シューベルト協会同人。現在、大阪音楽大学講師。アルカディア室内合唱団副指揮者・ヴォイストレーナー。平成6年度兵庫県芸術奨励賞受賞。

バス独唱：初鹿野剛

御殿場市出身。県立清水南高、東京芸術大学を経て同大学院修了（音楽修士）。在学時に松田賞受賞。友愛ドイツ歌曲コンクール奨励賞受賞。東京文化会館新進オーディション合格。声楽を後藤千恵子、芳野靖夫、原田茂生、M.レアールの各氏に師事。コンサートでは96年、「芸大メサイア」（朝日新聞社主催）の独唱者として楽壇にデビュー。主に宗教曲・交響曲他の独唱者として多くの公演に迎えられている。二期会会員。日本演奏連盟会員。浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行にソリストとして同行。各地で講評を博す。

コンサート・ミストレス：北川靖子

幼少より父に手ほどきを受け、後 W. シュタフォン・ハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業後、ウィーン国立音楽大学にて F. サモヒール、F. ホレチェックの両教授に師事。1975年、同大学を全教授一致の最優秀賞で卒業。1976年から1984年までハンブルク交響楽団、ハンブルク室内合奏団のコンサート・ミストレスを務める。1985年12月からピアノの北川暁子と「ドゥオの夕べ」を開催。ソロリサイタルの他、チェロの千本博愛、北川暁子とピアノ三重奏団セルヴェ・トリオとして演奏活動を行っている。

オルガン：花井淑

名古屋音楽大学音楽学部器楽科卒業。オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、F. ボーンの各氏に師事。また、Z. サットマリー、A. シェーンシュテット、H. フォーゲルの各氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、名古屋・カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。古楽アンサンブル〈アーベント・ムジケン〉メンバー、ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。日本オルガン研究会、日本オルガニスト協会会員。浜松バッハ研究会とは1996年の「マタイ受難曲」から共演が続いている。

*本日使用するパイプ・オルガンは高山市在住のオルガン製作家、田尻隆二氏作のコンティヌオ・ポジティブです。

浜松バッハ研究会管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、ソナスアンサンブルなどから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらず、レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

この原稿を書いている時、僕は新国立劇場主催のワーグナー作曲「ラインの黄金」公演の真っ只中にいる。毎日ワーグナーにどっぷり浸かって、エキサイティングな日々を送っている。こう書くと、せっかく浜松バッハ研究会の演奏会に来てバッハ三昧の時を過ごそうと思っている皆様は気を悪くするかもしれませんがね。

今更のように言うけど、僕はバロック音楽や教会音楽だけの専門家ではない。僕にとって大切な事は分野ではなく、自分が関わる作曲家への共感度である。僕はただバッハという作曲家の偉大さに触れ、傾倒し、バッハをより良く演奏したいが為にバロック音楽のスタイルやオリジナル楽器の演奏法を研究し、浜松や名古屋でこうして活動させてもらっている。

バッハほどの天才は音楽史上何処を見渡してもいない。音楽とその表現における全ての可能性はバッハにおいてすでに試みられ、その後の全ての作曲家の全ての作品は、その焼き直し、あるいは部分的拡大であると言っても差し支えない。バッハこそは生涯を賭けて追及するに相応しい真の巨匠であると思っている。ただそうしたバッハへの道を極める為に僕にとって大切な作曲家が一人いる。それがワーグナーである。

バッハとワーグナーはいくつかの点で共通するものを持っている。まず二人ともいかにもドイツ的作曲家であって、音楽を非常に構築性のあるものとして捉えている。様々な感情が彼等の音楽の中には溢れるようにありながら、決して感情だけに流される事なく、立体的な音楽を作っている。言葉と音楽との関係においては、それぞれ異なった方法で真剣に向かい合っているが、両者とも言葉の世界をただ情緒的に描くのみならず、象徴的かつ暗示的に捉え現わしている点において他の作曲家と一線を画している。

バッハは宗教改革の旗手マルチン・ルターから受け継いだコラールを扱う時、そのコラールの定旋律をまるでワーグナーの楽劇で見られるライトモチーフ（指導動機）のように扱う。ライトモチーフとはワーグナーが彼のドラマを音楽化する時に用いた手法で、ある決まった概念を表す時に、いつもそれに対応する音楽的モチーフが現れるというものである。それは歌手によって歌われる場合もあれば、歌手がテキストの抑揚に従った朗読風のメロディーを歌っている背景でオーケストラによって奏される場合もある。ラインの乙女達はラインの黄金の事を「ラインの黄金の動機」を歌いながら讃えるし、醜い小人族のアルペリヒがラインの黄金から作られた指輪の事を語る時、背景には「指輪の動機」が演奏され、フリッカはオーケストラによる「フリッカの動機」に乗って登場する。このライトモチーフの使用によって、ワーグナーは概念の音楽的記号化に成功し、歌劇という分野に複雑な心理劇を持ち込む事を可能にした。大きな自負心を持った彼は、自らの作品を従来の歌劇に対して楽劇と呼ぶようになるのである。

バッハのコラールに対する扱いが、ワーグナーのライトモチーフの扱いと似ているという理由を具体的に示そう。例えば「クリスマス・オラトリオ」の第一部で、キリスト誕生の箇所直前に、「マタイ受難曲」で有名な受難コラールが響く。またこの大曲の終曲自体が、トランペットやティンパニーで賑やかに彩られているものの、この同じ受難コラールを元に作られているのである。「クリスマス・オラトリオ」は喜びに満ちた作品であるから、受難コラールなど本来はこの場に「ふさわしくないもの」なのだ。しかしながらバッハがそうと分かっているが、あえてこれを使用するとしたら、受難コラールはそれが「受難コラール」である故に意味を持つ。すなわちこのコラールは「受難コラール」と記号化される事によってある種の暗示性を獲得するのだ。こうしたアプローチは近代的自我が芽生えた19世紀後半以前にはあまり見られないものであり、バッハがいかに新しい感覚を持っていたかがここで証明されている。

ワーグナーは「トリスタンとイゾルデ」において、全く何の気もないように装っているトリス

タンの言葉の背後に「愛の動機」を響かせている。それによって言葉とは裏腹な彼の潜在意識を表現することに成功している。同じようにバッハは、喜ばしいキリストの降誕劇の真っ只中に、すでに十字架上で終わる彼の生涯を暗示している。あるいは彼が生まれたのは十字架上で我ら人類の救済の為に死ぬ為であったのか、という教義的な問いを我々に投げかけているのかも知れない。こうした立体的な表現方法は真の天才でなければ見出しえなかったものであろう。

平和とやすらぎに満ちた有名なコラール「主よ人の望みの喜びよ」は、カンタータ147番で使われるだけでなく、たとえば「マタイ受難曲」の中で、ペテロがキリストの事を恐怖のあまり3度も知らないと言ってしまい、自責の念にかられて激しく泣く場面で、「憐れんでください」のアルトアリアと共に「我キリストを否認ども」の歌詞で歌われる。受難物語の中で客観的に描かれるペテロの個人的な苦悩が、それを心に受け止める聴衆の「われ」を現わすアリアに発展し、さらにそれが教会信徒達、すなわち「われわれ」に広がって、人間の弱さを超えたところにある神の恩寵の深さを表現しようとする時、この人の心を癒すようなやさしい性格のコラールをここに配置する事がバッハにとって不可欠であったといえる。このコラールはその意味において「心の癒し」というふうに記号化されている。すなわちこのコラール自身が「心の癒し」というライトモチーフである。

受難曲などでバッハは、様々な性格をもったコラールを様々に配置する。先ほどクリスマス・オラトリオで触れた「マタイ受難曲」の受難コラールに関しても、同じコラールを調性を変えたりハーモニーを変えたりして何度も使う事で聴衆に深く印象付け、悲劇性を煽る事に成功している。バッハは受難コラールの効果を最大限に引き出している。

彼の初期カンタータ106番の中では「それは古き定め、人よお前は死すべきなのだ」という厳しいフーガが歌われる。その最中に突然ソプラノが「そう、イエスよ来てください」と明るく歌い始める。そうして明暗二つの音楽はしばらく同時進行する。通常の作曲家だったらそれですでに満足するところであるが、凝り性のバッハはさらに平行してリコーダーに一つのコラールを何回かに分けて奏させる。これは器楽で演奏される為、当然歌詞はどこにも具体的には響かないけれど「わが主イエス・キリストは我が罪の為に死に、我が救いの為に蘇りたまえり」というこのコラールの歌詞は、聴く者の心の中にここでも暗示的に響くのである。

またカンタータ80番「我らが神は堅き砦」の冒頭合唱曲などを聴くと、ドイツのルター派の信徒だったら誰もが知ってるであろうこのコラールをフレーズごとにばらばらに分解し、対位的に変奏、展開していきながら、この曲というのがどういう音楽の世界をもっているのか、あるいはこの定旋律を使用したらどのような表現の可能性があるのか、余すことなく現わしているように思える。それはひとつのライトモチーフが様々な楽器に振り分けられたり、拡大、縮小されたり、途中で中断されたり、他のライトモチーフと積み重ねられたりして、ライトモチーフ自体の多様な表現の可能性を模索しているに等しい。

このカンタータでは全8曲中、冒頭合唱曲も含めた4曲までもがコラールを素材に作られている。残りの4曲のうち2曲は通奏低音だけの簡単なレシタティーヴォなので、ほとんどこのコラールによって形成されているカンタータといってもよい。第2曲目はソプラノソロを定旋律に持つバスソロとの2重唱。ヴァイオリンが起伏のあるテーマで曲を開始し、2重唱にはオブリガートとして絡んでゆく。オーボエは定旋律をソプラノと共に奏するが、微妙にずれる装飾が楽しい。第5曲目は快活なコラール幻想曲。力強く、このコラールの持つ澁刺とした面が強調されている。第8曲目はシンプルな4声体。このようにひとつのコラールを元にしながらここまで異なった性格を描き分けるバッハの筆の確かさには舌を巻く。

考えれば考えるほど不思議なのは、コラールというものが、バッハが生きていた時代にルター派教会の信徒達の間で普及していた「バッハ作曲ではない作品」なのにもかかわらず、バッハがまるでコラールの宣伝マンのようにコラールに奉仕していることだ。コラールは一般会衆みんなが歌えるようにルターが編纂した賛美歌だが、その単純さ故に他の作曲家達はそれを自作に組み

込んでいく事に対してどちらかという消極的であった。それに反しておそらくバッハは、コーラルの単純さと自分の複雑な芸術的楽曲構成とのギャップを埋める事に、ある種マニアックな喜びを見出していたのではないだろうかと僕には思える。彼は頼まれもしないのに最も古風なモテットのような曲の中にまでコーラルを持ち込んでいる。モテット「恐れるな、私はあなたのそばにいる」の後半の半音階的の主題に支えられたコーラル幻想曲の凄さよ。こうなると彼のコーラルへの執着に空恐ろしささえ覚えてくるのは僕だけであろうか。

僕は今日もワーグナー・チューバで奏される「天上のワルハラ城の動機」を聴きながらバッハを想う。ワーグナーとライトモチーフとの関係を語ると果てがないように、バッハとコーラルとの関係も語って語り尽くせぬものがある。

ドイツ演奏旅行報告

長年の念願であったドイツ演奏旅行がついに実現した。しかもライブチヒ聖トーマス教会の礼拝という、まさにバッハが彼の作品の多くを作り演奏したその場所での演奏も実現した。ここで演奏旅行の概要、ハレでの演奏に対する新聞批評および聖トーマス教会の礼拝の様子をご紹介します、本演奏旅行の報告に替えさせていただくことにする。

日程：2000年12月29日出発 - 2001年1月8日帰国

参加人数：指揮者1名、ソリスト4名、合唱団42名、オーケストラ20名、
スタッフ及び家族11名、現地でのオーケストラ応援5名

主な公演および訪問先

- 200.12.31 バルトロメ教会（ドルンハイム） モテット第6番奉納演奏
バッハ教会（アルンシュタット） ジルベスタ・コンサート
カントールGottfried Preller氏オルガン独奏とのジョイントコンサート
モテット第6番、カンタータ第171番を演奏
- 2001.1.1 ゲオルグ教会（アイゼナハ） 新年の礼拝に参加、アイゼナハバッハコールと一緒にクリスマスオラトリオ第4部の合唱曲を演奏
- 2001.1.2 シャウシュピールハウス（エアフルト） 「口短調ミサ曲」演奏会開催
- 2001.1.3 ヴェンツェル教会（ナウムブルグ） モテット第6番奉納演奏
- 2001.1.4 マルクト教会（ハレ） 「口短調ミサ曲」演奏会開催
- 2001.1.5 聖トーマス教会 モテット第6番、カンタータ第171番などを演奏
- 2001.1.6 聖トーマス教会 モテット第6番、カンタータ第65番などを演奏

マルクト教会（ハレ）での演奏会について現地新聞に掲載された批評

バッハによる日本への掛け橋

浜松・豊橋の合唱団による口短調ミサでハレの聴衆感激する

静けさの中に最後の和声の余韻が残るほんの一瞬の後、聴衆は立ち上がり遠路はるばるやってきた芸術家達に心からの長い拍手を送った。木曜日のマルクト教会では文化と大陸を超えた相互理解の掛け橋を感じることができた。その掛け橋となったのはバッハの音楽である。

浜松と豊橋の二つのバッハ合唱団が口短調ミサ曲を演奏したときに音楽の普遍性というバッハの意図はかなえられたであろう。指揮者である三澤洋史氏は大きく体を使って、だが常に具体的な動きで指揮をしていた。彼によるバッハの最も壮大で完全な曲の解釈は決して並外れたものではない。それは理知的、音楽的また言語的な側面からの楽曲内容の探究によるものであり、又そ

れにより聴衆の心に届いたのである・・・たとえ単なる興味本位でやってきた人々にまでも。

Kyrieで表現されたような強い躍動的な上昇が再度に渡ってみられ、大きな形式上の力と絶え間ない振り子のような揺さぶりにより音楽の力強い上昇が感じられた。また一方でCrucifixusでみられたようなささやき、耳打ち、そして吐息が約40名をかぞえる合唱から聞こえてきた。ソプラノではいつも完璧に高音に届いていたとはいえなかったにしろフーガはまとまりよくはっきりと演奏された。

どの場面でもラテン語の歌詞の明瞭さは卓越していた。Gloria、SanctusそしてOsannaではキリスト降誕後の華やかさが、歓声をあげるかのようなティンパニやトランペットとともに表現された。また喜びが歌手、聴衆双方に同じように映し出されていた。

ただ一度、教会の空間で息をのんだのは、Confiteorの終わりにコーラスとオーケストラとのハーモニーのずれが生じたときだった。だがそれもわずかな拍後、再びすべての声が最も美しい響きに集められた。オーケストラはとて繊細に演奏しており、深いビロードの絨毯のような弦楽器によって効果的な基盤を形作っていた。特に言及好きは熟練しつつも控えめなソリストの演奏である。アリアにおいては楽器のソリストたちが感情移入した共演者であった。

4人のソリスト達はまさに選びだされた個性的な声によって、又これらは輝きのある美しさをそなえたものであるが、印象深い感情の多彩なひだをみせてくれた。

(日本語訳：端山好彦)

ライブチヒ聖トーマス教会での演奏

今回私達が出演したのは毎週金曜日および土曜日に開かれるモテットミサという恒例の礼拝で、通常は聖トーマス教会合唱団とゲバントハウス管弦楽団が演奏を担当している。奇しくも21世紀最初のモテットミサ(1月5日が金曜日であった)で、トーマス教会合唱団やゲバントハウス管弦楽団に代わって演奏するとは、後から考えると大変なことをしでかしたものである。

私達が演奏する場所はバツハの墓がある祭壇と反対側2階の聖歌隊席である。さらにその聖歌隊席を両側から見下ろすような形で聖歌隊席がある。「マタイ受難曲」の二重合唱はこの両側の聖歌隊席で歌われることを念頭にしておかれたということだ。背後には立派なパイプオルガン(バツハオルガン)が教会の中ほどにあった。聖歌隊席で歌うと意外と残響は少ないように感じる。しかし一階の祭壇の前に行くと、まさしく天井から降り注ぐような心地よい残響で溢れていた。

礼拝は教会のオルガニストによるバツハオルガンの演奏で始まった。オルガンに引き続き私達の最初の演奏「モテット第6番」。次に会衆と一緒にコラルを歌う。この日は「暁の星のいと美しきかな」の1番、4番、7番を歌った。まずオルガニストの前奏であるが、即興演奏でまるでオルガンのソロ曲のように華麗なものであった。続いてオルガンの伴奏によって1番を会衆の方達と一緒に歌う。4番は我々の演奏だが、オーケストラ編曲および合唱編曲とも三澤先生がこのために書き下ろしたもの。(実はこの楽譜は出発時に空港で渡され、オーケストラはドイツでの練習の合間にパート譜を書き、合唱は移動のバスの中で練習した。これもまた楽しい思い出となった。)7番は再びオルガン伴奏により全員で歌った。その後Christian Wolf牧師によるお説教があり、最後にカンタータの演奏で締めくくられた。得に2日目はエピファニー(顕現節)で、そのためのカンタータ第65番「彼ら皆サバより来て」を演奏した。基本的には礼拝であるので演奏が終わっても拍手はないのだが、しばらく間があって拍手の輪が会衆の中からひろがり大きなものとなった。その後Wolf牧師や現在のkantoor(つまりバツハの後継者)Georg Christoph Biller氏が聖歌隊席に来られてねぎらいの言葉を掛けてくださった。こうして我々のドイツでの最後の演奏が終わったが、皆その場を離れ難くいつまでも写真を撮り合っていたのであった。

早川徳次

モテト「恐るるなかれ、われ汝とともにあり」

Motette "Fürchte dich nicht, ich bin bei dir": BWV228

モテト 多旋律の宗教的合唱曲。

初演 1726年2月4日、ズザンナ・ゾフィア・ヴィンクラー（旧姓バックブッシュ）の追悼礼拝？

歌詞 ドイツ語、旧約聖書 - イザヤ書、41-10と43-1

コラール「われなにゆえに悲しまん」第11・12節、1653年パウル・ゲルハルト作

編成 二重合唱（合唱4部×2）、通奏低音（チェロ、コントラバス、オルガン）

使用楽譜 ベーレンライター（新バツハ全集準拠）

Jes. 41.10

Fürchte dich nicht,
weiche nicht, denn ich bin dein Gott!
Ich stärke dich, ich helfe dir auch,
ich erhalte dich durch die rechte Hand
meiner Gerechtigkeit.

イザヤ書 - 第41章第10節

恐れるな、私はあなたと共にいる。
たじろぐな、私はあなたの神なのだから。
私はあなたを強め、あなたを助け、
私の救いの右の手であなたを支えよう。

Jes. 43.1

Fürchte dich nicht,
denn ich habe dich erlöst,
ich habe dich bei deinem Namen gerufen,
du bist mein!

イザヤ書 - 第43章第1節

恐れるな、
私はあなたを贖うのだから。
私はあなたの名を呼ぶ。
あなたは私のもの。

Choral

Herr, mein Hirt, Brunn aller Freuden,
du bist mein, ich bin dein,
niemand kann uns scheiden.
Ich bin dein, weil du dein Leben
und dein Blut mir zu gut
in den Tod gegeben.

コラール

主よ、私の牧者、全ての喜びの泉よ。
あなたは私のもの、私はあなたのもの、
私たちを分かち合えない。
私はあなたのもの、それはあなたは生命と
血を私に良かれと
死に引き渡されたのだから。

Du bist mein, weil ich dich fasse,
und dich nicht, o mein Licht,
aus dem Herzen lasse.
Laß mich, laß mich hingelangen,
da du mich und ich dich
lieblich werd umfangen.

あなたは私のもの。私はあなたを抱き、
そしてあなたを、おお私の光よ、
胸から離さないからです。
どうか私を行かせてください。
あなたが私を、私があなたを
愛しく互いに抱き合うところまで。

カンタータ第80番「われらが神は堅き砦」

Kantate "Ein feste Burg ist unser Gott" BWV80

カンタータ 種々の形態の伴奏をもつアリア、レチタティーヴォ、重唱、合唱などからなる
声楽作品

原曲 「神より生まれしすべてのものは」1715年の四旬節第3日曜日用

初演 ヴァイマル稿 (BWV80a) : 1715年3月24日

ライプツィヒ第1稿? (消失) : 1724年10月31日

第2稿 : 1727~1731年成立

第3稿 : 1744~1747年成立 - この頃現在の第1曲が完成?

機会 ヴァイマル稿 : 四旬節第3日曜日 (オークリ)、ライプツィヒ稿 : 宗教改革記念日

書簡章句 テサロニケ人への第2の手紙第2章3~8節

福音書章句 ヨハネ黙示録第14章6~8節 (永遠の福音「神を恐れ、神に栄光を帰せよ」)

歌詞 ドイツ語、ザーロモン・フランク「福音主義礼拝の捧げもの」(1715)から

使用コラール マルティーン・ルター「われらが神は堅き砦」(1529)全4節

編成 独唱4、合唱4部、オーボエ2 (ダ・モーレと持ち替え)、オーボエ・ダ・カッチャ、
ヴァイオリン2部、ヴィオラ、通奏低音 (チェロ、コントラバス、オルガン)

使用楽譜 ベーレンライター (新バッハ全集準拠)

*旧全集にあるトランペットとティンパニのパートは、バッハの死後、長男のフリーデマンがラテン語の歌詞によるパロディーで演奏した時に付け加えられた、というのが現在では通説。

第1曲 合唱 [コラール第1節]、二長調、4/4拍子、バール形式、全合奏

**Ein feste Burg ist unser Gott,
ein gute Wehr und Waffen;
er hilft uns frei aus aller Not,
die uns itzt hat betroffen.
Der alte böse Feind,
mit Ernst ers itzt meint,
groß Macht und viel List
sein grausam Rüstung ist,
auf Erd ist nicht seingsleichen.**

**われらの神はかたい砦
良き守り、良き武器である。
神は全ての苦難からわれらを救いたまう。
われらが今出会う苦難から。
古き悪しき敵は
今や本気で思いを巡らし、
恐るべき力と多くの策を
残忍な武器とする。
地上には彼に及ぶものは何もない。**

第2曲 アリア (バスとソプラノ [太字、コラール第2節] の二重唱)、二長調、4/4拍子、
バール形式、オーボエ、弦、通奏低音

Alles, was von Gott geboren,
ist zum Siegen auserkoren.
Wer bei Christi Blutpanier
in der Taufe Treu geschworen
siegt in Christo für und für.
**Mit unser Macht ist nichts getan,
wir sind gar bald verloren.
Es streit' vor uns der rechte Mann,
den Gott selbst hat erkoren.
Fragst du, wer er ist?
Er heißt Jesus Christ,
der Herre Zebaoth,**

神より生まれたすべての者は、
勝利のために選び出された者。
キリストの血潮の旗のもとに
洗礼により忠誠を誓った者は
キリストによって永遠の勝利を得る。
**われらの力では何も出来ず
われらはやがて滅びゆく。
われらのために戦う正しい人は
神が自ら選ばれた。
あなたは問う、それは誰かと。
その方の名はイエス・キリスト
万軍の主で、**

**und ist kein anderer Gott,
das Feld muß er behalten.**

* 下線部：旧全集では"im Geiste"「御霊」

他のいかなる神でもない。
彼が戦い続けてくださる。

第3曲 レチタティーヴォ（バス）、口短調から嬰へ短調、4 / 4 拍子、通奏低音
Erwäge doch, Kind Gottes,
die so große Liebe,
da Jesus sich mit seinem Blute
dir verschriebe,
womit er dich zum Kriege wider Satans Heer
und wider Welt und Sünde geworben hat!
Gib nicht in deiner Seele
dem Satan und den Lastern statt!
Laß nicht dein Herz,
den Himmel Gottes auf der Erden,
zur Wüste werden!
Bereue deine Schuld mit Schmerz,
daß Christi Geist mit dir sich fest verbinde!

しかし考えよ、神の子よ、かくも偉大なる愛を
イエスはその血であなたに身を委ねられる。
それにより主はあなたをサタンの軍勢と
この罪の世との戦いに召された。
汝の魂を
サタンと悪徳に委ねてはならない。
あなたの心、
地上での神の住処であるあなたの心を、
荒野にしてはならない。
あなたの罪を苦痛とともに悔い
キリストの霊があなたと堅く結ばれますよう。

* 下線部：各々"verschrieben", "Sieve"という版もある。

第4曲 アリア（ソプラノ）、口短調、12 / 8 拍子、自由なダ・カーポ形式、通奏低音
Komm in mein Herzenshaus,
Herr Jesu, mein Verlangen!
Trieb Welt und Satan aus,
und laß dein Bild in mir erneuert prangen!
Weg, schnöder Sündengraus!

わが心の家にお入りください、
主イエスよ、わが望みよ。
世とサタンを追い払い
お姿を私に輝きと共にお見せください。
去れ、さげすむべき罪の戦慄よ。

第5曲 合唱（独唱者斉唱）[コラール第3節]、二長調、6 / 8 拍子、バール形式、全合奏
**Und wenn die Welt voll Teufel wär
und wollten uns verschlingen,
so fürchten wir uns nicht so sehr,
es soll uns doch gelingen.
Der Fürst dieser Welt,
wie saur er sich stellt,
tut er uns doch nicht,
das macht, er ist gericht',
ein Wörtlein kann ihn fällen.**

もしこの世が悪魔に満ち
われらを飲みこもうとしても
われらはさほど怖れない。
われらの勝利は間違いない。
この世の長が
どんなに渋い顔をしても、
彼はわれらに何もすることはできない。
必ず彼は裁かれ、
神の御言葉の一言で倒されるだろう。

第6曲 レチタティーヴォ（テノール）、口短調から二長調、4 / 4 拍子、通奏低音
So stehe dann bei Christi
blutgefärbter Fahne,
o Seele, fest, und glaube,
daß dein Haupt dich nicht verläßt,
ja, daß sein Sieg auch dir
den Weg zu deiner Krone bahne!
Tritt freudig an den Krieg!

ならばキリストの血に染った御旗の元に立て、
おお魂よ、しっかりと、そして信じよ、
主はあなたを見捨てることはない。
そう、彼の勝利はあなたにも
栄光の道を開くのだから。
喜んで戦いに集え。

Wirst du nur Gottes Wort so hören als bewahren, so wird der Feind gezwungen auszufahren, dein Heiland bleibt dein <u>Heil</u> , dein Heiland bleibt dein Hort.	神の言葉のみを聞き守るならば 敵は拉ぎ去り あなたの救い主は <u>救い</u> としてとどまり、 あなたの救い主は保護者としてとどまる。
--	--

* 下線部：旧全集では"denn"、二重下線部："Hort"となっている版もある。

第7曲 アリア（アルトとテノールの二重唱）、ト長調、3 / 4 拍子、小部分並列の経過形式、オーボエ・ダ・カッチャ、ヴァイオリン、通奏低音

Wie selig sind <u>doch die</u> , die Gott im Munde tragen, doch selger ist das Herz, das ihn im Glauben trägt! Es bleibt unbesiegt und kann die Feinde schlagen und wird zuletzt gekrönt, wenn es den Tod erlegt.	何と幸いだろうか、 神を口でたたえる者は。 しかしなお心は幸いである、 神を信仰のうちに抱く心は。 それは打ち負かされることなく、 敵を打ち倒すことができ、 そして遂に栄冠を受ける、 死を克服した時に。
--	--

* 下線部："doch sie"、"sie doch"という版もある。

第8曲 コラール [コラール第4節]、二長調、4 / 4 拍子、全合奏

Das Wort sie sollen lassen stahn und kein Dank dazu haben. Er ist bei uns wohl auf dem Plan mit seinem Geist und Gaben. Nehmen sie uns den Leib, Gut, Ehr, Kind und Weib, laß fahren dahin, sie habens kein Gewinn; das Reich muß uns doch bleiben.	彼ら言葉を放ち 感謝されることもない。 主はわれらのもとに姿を現わす、 その霊と贈物によって。 彼らがわれらから肉体、 宝、榮譽、子や妻を奪うなら、 なすがままにさせよ。 彼らに勝利はない。 御国はなおわれらのもとにとどまる。
--	---

----- 休憩：Intermission -----

**モテト「主を頌めまつれ、もろもろの異邦人よ」
Motette "Lobet den Herrn, alle Heiden": BWV230**

初演 不明
歌詞 ドイツ語、旧約聖書 - 詩篇117-1/2
編成 合唱4部、通奏低音（チェロ、コントラバス、オルガン）
使用楽譜 ベーレンライター（新バツ八全集準拠）

Psalm 117.1-2

Lobet den Herrn, alle Heiden,
und preiset ihn, alle Völker!
Denn seine Gnade und Wahrheit
waltet über uns in Ewigkeit.
Alleluja.

詩篇 - 第117章第1・2節

主を賛美せよ、すべての異教徒よ、
主をほめたたえよ、すべての国の民よ、
主の恩寵とまことは永遠に私たちに及び。

ハレルヤ（主を賛美せよ）。

復活祭オラトリオ「来たれ、急いで走れ」

Oster-oratorium "Kommt, eilet und lauffet" BWV249

オラトリオ 宗教的な題材による大規模な叙事的楽曲で、独唱・合唱・管弦楽を用い、音楽は劇的に作られるが動作や背景衣装は使用しない。

初演 1725年4月1日

原曲 《逃れよ、消えよ、退き失せよ、もろもろの憂いよ》（音楽消失）

1725年2月23日ヴァイセンフェルス公の誕生日のために作曲・上演

機会 復活祭第1日曜日

書簡章句 コリント人への第1の手紙第5章6～8節

福音書章句 マルコ伝第16章1～8節（キリストの復活）

歌詞 ドイツ語

歌詞作者 ビカンダー（クリスティアン・フリードリヒ・ヘンリーツィ）？（1725）

編成 独唱4（S、A、T、B）、合唱4部、トランペット3、ティンパニ、リコーダー2、フルート、オーボエ2、オーボエ・ダモーレ、ファゴット、弦〔ヴァイオリン2部、ヴィオラ〕、通奏低音〔チェロ、コントラバス、オルガン〕

使用楽譜 Carus

第1曲 シンフォニア（アレグロ）、二長調、3 / 8 拍子、全合奏

第2曲 シンフォニア（アダージョ）、口短調、3 / 4 拍子、オーボエ独奏、弦、通奏低音

第3曲 合唱（太字）と二重唱（テノール、バス）、二長調、3 / 8 拍子、全合奏

**Kommt, eilet und lauffet,
ihr flüchtigen FüÙe,
erreicht die Höhle,
die Jesum bedeckt!**

Lachen und Scherzen
begleitet die Herzen,
denn unser Heil ist auferweckt.

**来たれ、急いで走れ、
素速い足よ、
イエスを蔽う墓穴に到れ！**

笑いと喜びに
心は弾む、
われらの救い主が甦ったのだから。

第4曲 レチタティーヴォ（全独唱）、4 / 4 拍子、通奏低音

[Maria Magd.: Alto]

O kalter Männer Sinn!

Wo ist die Liebe hin,

die ihr Heiland schuldig seid?

[Maria Jacobi: Soprano]

Ein schwaches Weib muß euch beschämen!

[Petrus: Tenore]

Ach! ein betrübtes Grämen

[Johannes: Basso]

und banges Herzeleid

[Beide Männer]

hat mit gesalznen Tränen

und wehmutsvollem Sehnen

ihm eine Salbung zugedacht,

[マグダラのマリア：アルト]

おお冷たい男性たちの心よ！

愛はどこに行ったのか？

救い主に愛が負い目を償いきれるのか。

[ヤコブの母マリア：ソプラノ]

か弱い女性があなた方を恥入らしめるとは！

[ペテロ：テノール]

ああ、閉じ塞がれた悲しみ、

[ヨハネ：バス]

そして不安におののく心の痛みは

[男声両者]

塩からい涙と

悲哀に満ちた憧れにより

主に葬りの塗油を捧げようと願ったが、

[Beide Frauen]
die ihr, wie wir, umsonst gemacht.

[女声両者]
あなた方も、われらと同じく、
甲斐のないものだった。

第5曲 アリア(ソプラノ)、口短調、3/4拍子、フルート独奏、通奏低音
Seele, deine Spezereien
sollen nicht mehr Myrrhen sein.
Denn allein
mit dem Lorbeerkranze prangen,
stillt dein ängstliches Verlangen.

魂よ、汝の捧げる香料は
もはやただの乳香ではない。
唯一
栄冠を誇示して、
あなたの不安な憧れを静めるのだから。

第6曲 レチタティーヴォ(アルト、テノール、バス)、4/4拍子、通奏低音
[Petrus: Tenore]
Hier ist die Gruft,
[Johannes: Basso]
und hier der Stein,
der solche zugedeckt.
Wo aber wird mein Heiland sein?
[Maria Magd.: Alto]
Er ist vom Tode auferweckt!
Wir trafen einen Engel an,
der hat uns solches kundgetan.
[Petrus: Tenore]
Hier seh ich mit Vergnügen
das Schweiß Tuch abgewickelt liegen.

[ペテロ: テノール]
ここが墓穴だ。
[ヨハネ: バス]
そしてここに石があって、
墓穴を塞いでいた。
しかしわが救い主は何処にいらっしゃるのか?
[マグダラのマリア: アルト]
主は死から甦ったのだ!
われらは御使いに会って、
かれはわれらにそう告げた。
[ペテロ: テノール]
ここにわれは心みち足りて
(主の首を包む)手拭が巻いてあるのを見る。

第7曲 アリア(テノール)、ト長調、4/4拍子、リコーダー2、弦、通奏低音
Sanfte soll mein Todeskummer
nur ein Schlummer,
Jesu, durch dein Schweiß Tuch sein.
Ja, das wird mich dort erfrischen
und die Zähren meiner Pein
von den Wangen tröstlich wischen.

わが死の苦しみは和らぎ、
束の間のまどろみとなるだろう、
イエスよ、あなたの手拭に包まれるとき。
そう、それは死にて私を活かし、
わが苦悩の涙を
やさしく頬より拭う。

第8曲 レチタティーヴォ(ソプラノ、アルト)、4/4拍子、通奏低音
[Beide Frauen]
Indessen seufzen wir
mit brennender Begier:
Ach! könnt es doch nur bald geschehen,
den Heiland selbst zu sehen!

[女声両者]
されどわれらは呻いて、
燃える思いで乞い願う、
ああ、ただ速やかに時が来て、
救い主自身に会いたいものだ!と。

第9曲 アリア(アルト)、イ長調、4/4拍子、オーボエ・ダモーレ独奏、弦、通奏低音
Saget, saget mir geschwinde,
saget, wo ich Jesum finde,
welchen meine Seele liebt!
Komm doch, komm, umfasse mich,

告げよ、告げよ、私に急いで、
告げよ、私はどこでイエスと会えるだろうか、
わが魂の慕う君に!
来たれ、来て私を抱きしめ給え、

denn mein Herz ist ohne dich
ganz verwaiset und betrübt.

私の心はあなたなしでは
捨てられ悲歎にくれるしかないのだから。

第10曲 レチタティーヴォ (ヨハネ:バス)、4 / 4 拍子、通奏低音

Wir sind erfreut,
daß unser Jesus wieder lebt,
und unser Herz,
so erst in Traurigkeit zerfließen
und geschwebt,
vergißt den Schmerz
und sinnt auf Freudenlieder;
denn unser Heiland lebet wieder.

われらは喜ばしい、
われらのイエスが再び生き返られたのだから。
そしてわれらの心は、
ひとたび悲しみにおし流され、漂泊したが、
いまや痛みを忘れ、
喜びの歌に思いを致す。
われらの救い主が再び生き返られたのだから。

第11曲 合唱、二長調、2 / 2 ~ 3 / 8 拍子、全合奏

**Preis und Dank
bleibe, Herr, dein Lobgesang!**

**Höll und Teufel sind bezwungen,
ihre Pforten sind zerstört.
Jauchzet, ihr erlösten Zungen,
daß man es im Himmel hört!
Eröffnet, ihr Himmel,
die prächtigen Bogen,
der Löwe von Juda
kommt siegend gezogen!**

**讚美と感謝は
永遠に、主よ、
あなたの頌め歌となりますように。
地獄と悪魔はうちひしがれ、
その門はうち破られた。
歓呼せよ、贖われし者らの舌よ、
天に聞こえるまで。
うち開け、もろもろの天よ、
壮麗なる門を、
ユダ族の獅子が
勝利の凱旋を果すのだから！**

第12曲 コラール、二長調、3 / 4 拍子、全合奏

**Es hat mit uns nun keine Not,
nichts schadet uns der ewig Tod:
Christus, der hat in dieser Schlacht
gesieget und uns frei gemacht.**

われらに今や悩みはなく、
永遠の死にも何も損なうことはない。
キリストは、その戦いにて
勝利しわれらを自由にされた。

参考

- ・モテト、カンタータ、オラトリオの説明
新音楽辞典・楽語 / 音楽之友社
- ・モテトBWV228/230概説と歌詞訳
リリンク指揮「バッハ / モテト全集」(COCO-7479 ~ 80) 添付の樋口隆一氏の解説と対訳
- ・カンタータBWV80とオラトリオBWV249の概説と歌詞訳
リリンク指揮「バッハ / 教会カンタータ全集」(OP-7243) 添付の解説と対訳

「上演曲目概説と歌詞訳」に関するご意見・ご質問は小川与半へお寄せください。

・ E-mail ogawa-yh@classic.interq.or.jp

・ Home page <http://www.interq.or.jp/classic/ogawa-yh/> 今までの演目のMIDIファイルがあります。

浜松バッハ研究会演奏活動年譜

主催公演

上演日	上演曲目	指揮	上演会場
1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1986. 3.28	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1987. 4.13	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1988. 3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	福祉文化会館
1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	遠州栄光教会
1990.10. 7	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	福祉文化会館
1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	遠州栄光教会
1991. 8.12	バッハ「ヨハネ受難曲」朗読と合唱	三澤洋史	龍山村森林文化会館
1992. 3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	福祉文化会館
1993. 3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	福祉文化会館
1994. 6.12	「無伴奏合唱への誘い」BWV225/229他	三澤洋史	遠州栄光教会
1995. 1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他	三澤洋史	遠州栄光教会
1996. 2.18	バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	アクト中ホール
1997. 2.16	バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム（バイヤー版）」	三澤洋史	アクト中ホール
1998. 4. 5	バッハ：BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	福祉文化会館
2000. 2.13	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	アクト中ホール
2000.12.29～2001.1.8	ドイツ演奏旅行 / 「ミサ曲口短調」他	三澤洋史	ライブツィヒ他

合同・協賛公演

上演日	上演曲目および内容	上演会場
1986. 9.15	浜松クリスチャン・クワイアとの合同演奏会 モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276 S. 藤井多恵子、Pf. 鈴木敦子、Orch. カペラ・アカデミカ	遠州栄光教会
1986.10.19	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1987. 9.20	教会音楽コンサート協賛 - BWV56/80 Br. 今仲幸雄	遠州栄光教会
1987.10. 9	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1988. 3. 5	正泉寺「山寺音楽会」協賛 バッハ「マタイ受難曲」コラールとその原曲	引佐郡井伊谷正泉寺
1991. 3.17	瑞穂会ピアノ発表会賛助出演 モーツァルト：12番ミサよりキリエとグロリア、Ave verum corpus、 バッハ：BWV140よりコラール	クリエート浜松
1991. 6.30	掛川市駅南学習センター美感ホールでのオープニング モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276, Ave verum corpus Orch. カペラ・アカデミカ	掛川市美感ホール
1991.12.23	市政80周年記念ラートハウス・コンツェルト バッハ「クリスマス・オラトリオ」抜粋、Orch. カペラ・アカデミカ	浜松市役所ホール

合唱団員募集

浜松バッハ研究会

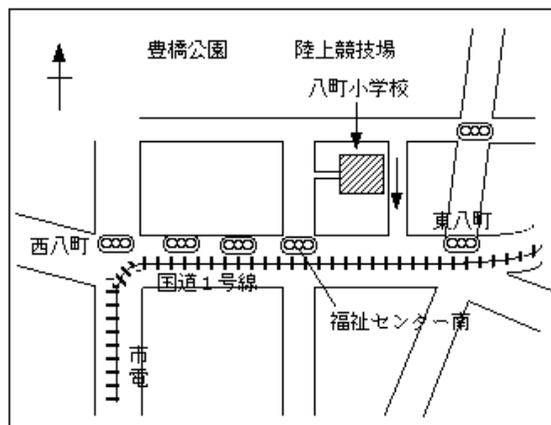
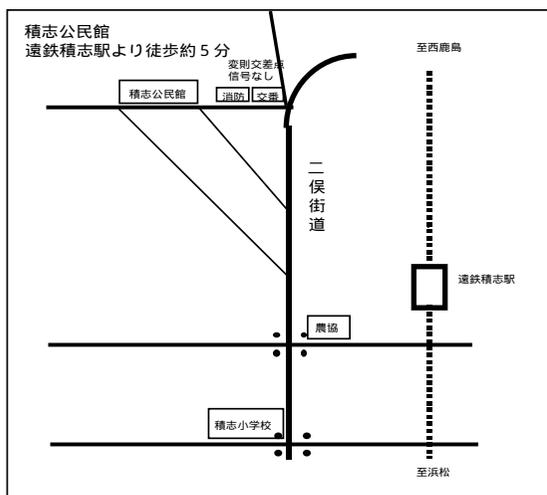
浜松バッハ研究会も96年上演の「マタイ受難曲」のための練習以来団員数も増え、創立以来のアットホームな雰囲気を保ちつつも、新たな飛躍を遂げ始めました。最近では電子音源を利用した音取り教材提供など、ユニークな試みも行っていきます。今冬は念願のドイツ公演にて、バッハの晩年の大作「ミサ曲口短調」BWV232 他を上演してまいりました。このような私たちの活動に興味をお持ちの方は、ぜひ一度練習場までお越しください。

- 今後の活動** ・バッハの宗教曲大作
- 練習場** 積志公民館（下図左）ほか
- 練習日時** ・毎週土曜日 19:00～21:30
・月1回三澤先生の練習 主に日曜日 13:00～17:00
- 会費** 月額2500円（学生2000円、高校生1500円）
- 連絡先** 早川徳次（ 053-472-0341[FAX可]、E-mail: tmmmykw@mb.infoweb.ne.jp ）
- ホームページ** <http://www.tcp-ip.or.jp/~bach/>、E-mail: bach@tcp-ip.or.jp

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理...という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身です。毎週豊橋で練習し、月1回は浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に、三澤先生の練習に参加しています。豊橋及びその近くにお住まいで、バッハの声楽作品を歌いたい方は、ぜひ一度練習を見にお越しください。

- 練習場所** ・毎週金曜日 19:45～21:45 八町小学校音楽室（下図右）運動場南東角1F
・月1回三澤先生の練習 主に日曜日13:00～17:00 浜松市積志公民館ほか
- 会費** 月額1500円
- 連絡先** 安井研一（ 0532-47-0676 ）



出演者追加のお知らせ（福田員茂氏に替わって）

トランペット客演 松野 美樹（まつの はるき）

1965年、三重県四日市市出身。13才よりトランペットを始める。

1989年、東京芸術大学卒業。以来、フリーのトランペット奏者として、ソロ、オーケストラ、室内楽、吹奏楽などの演奏活動を行なう。得にピッコロトランペット奏者として、バッハなどのバロック期の作品にてソリスト及び第一奏者として高い評価を得ている。今日までに東京ゾリステン定期演奏会、ゆふいん音楽祭などにソリストとして出演。

近年では、1994年に東京芸術劇場、四日市文化会館、1995年に那須野が原ハーモニーホール（栃木県）、1996年に東京文化会館、1998年にあさけプラザ（三重県）、1999年にサラマンカホール（岐阜県）において、各文化財団及びホール主催のコンサートにソリストとして出演し、オルガニスト、チェンバリストとの共演の他、ピアニストとのデュオによるコンサートを各地にて行なう。

また1996年11月にはNHK-FM「FMリサイタル」に出演。

トランペットを北村源三、田中昭両氏に、バロック音楽を小林道夫氏に師事。